

持続可能な地域交通を実現する地域交通DX:MaaS2.0

「交通空白」解消など地域交通の「リ・デザイン」の
全面展開を進めるため、

「サービス」、

「データ」、

「マネジメント」、

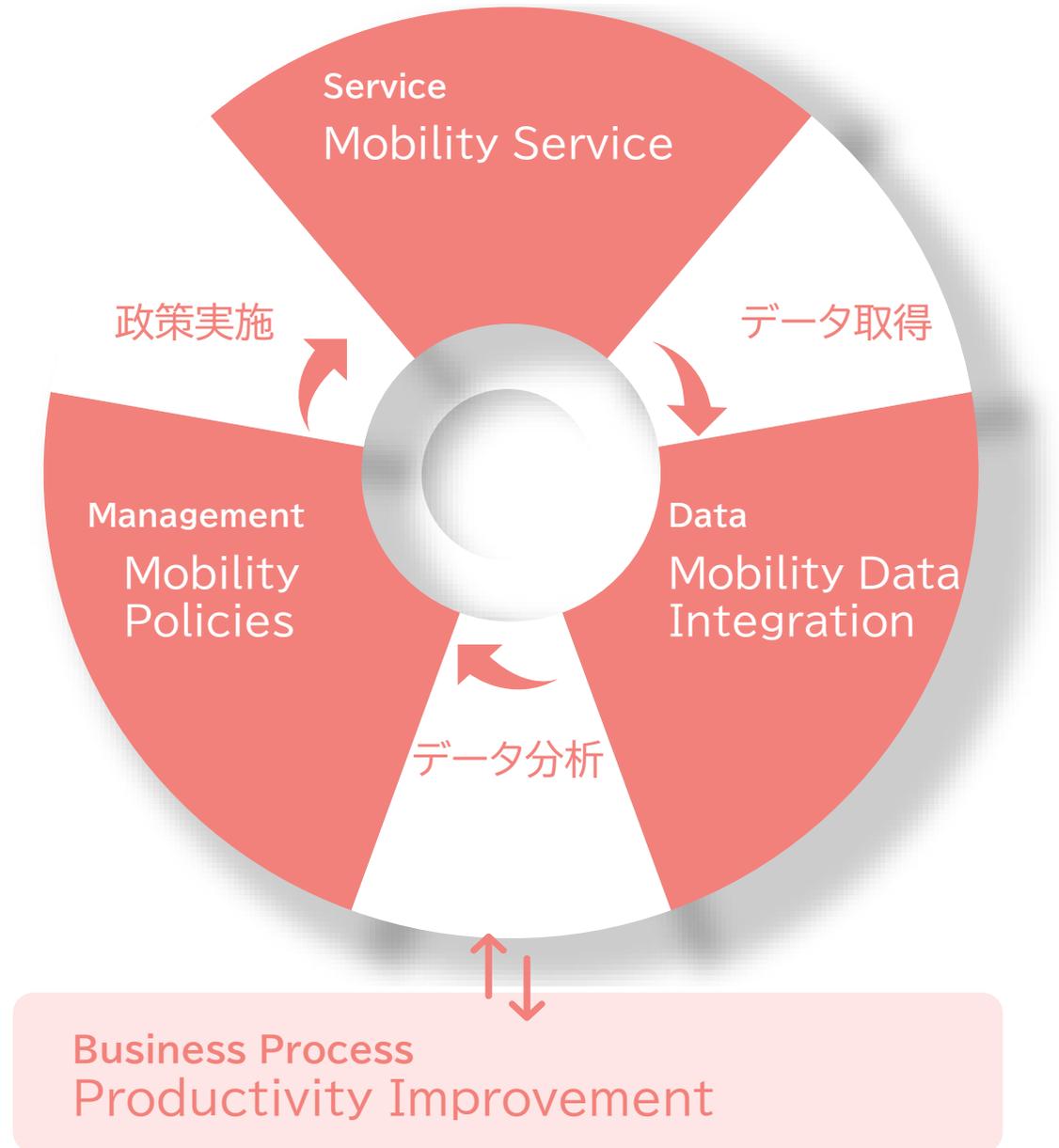
「ビジネスプロセス」

の4つの観点からデジタル活用を一体的に推進し、

地域交通の持続可能性、利便性、生産性向上を実現する

地域交通DX推進プロジェクト:MaaS2.0を

新たにスタートします。

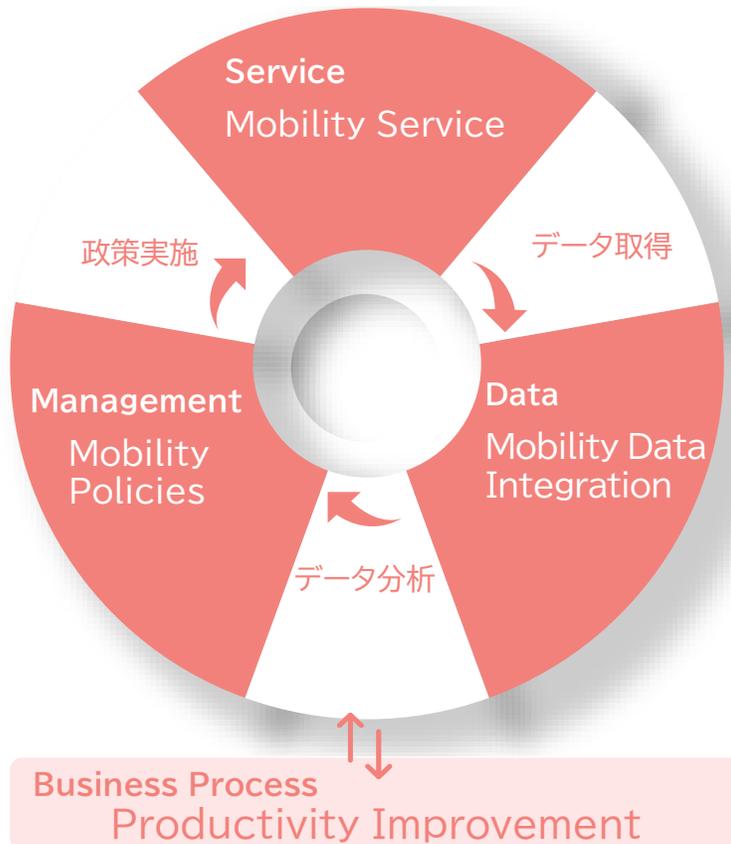


MaaS概念の転換 - 目指す姿

MaaSアプリや配車アプリの開発、デジタル・チケットング(交通キャッシュレス)の導入、データ活用の推進など、地域交通に関するデジタル施策はこれまでそれぞれ進められてきていました。人口減少・高齢化などにより地域交通の持続可能性が懸念されるなか、交通サービスの利便性向上や産業構造の強靱化、地域におけるデータ活用の推進などの観点から、これらのデジタル施策の連携を一層深める必要があります。

地域交通におけるデジタル技術の活用を地域交通の持続可能性、利便性、生産性向上という価値にコミットするエコシステムとして再構築するため、「サービス」「データ」「マネジメント」「ビジネスプロセス」の4つの観点からデジタル活用を一体的に進める地域交通DX:MaaS2.0を推進します。

MaaS2.0の目指す姿



<p>📱 サービス品質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> 移動需要を惹起する高機能・高品質なサービスを実現 <ul style="list-style-type: none"> MaaSアプリ等による真にマルチモーダルかつシームレスな移動体験 移動需要惹起に資する他分野連携の実現 洗練されたUI/UXの実現 地域の課題を解決する交通サービスの実現
<p>💻 データ取得環境の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域交通の最適化に向けたデータ取得・連携環境を整備 <ul style="list-style-type: none"> MaaSと連携したマルチモーダルな移動実績データの取得環境を構築 データ仕様や出力インターフェースの標準化によるデータ活用コストの低減 自治体職員がデータを自ら扱えるようなケイパビリティの向上
<p>📄 データドリブンの全体最適化</p>	<ul style="list-style-type: none"> データドリブンの地域交通の最適化を実現 <ul style="list-style-type: none"> 交通シミュレーション等のデータ分析ツールの技術開発及び指標開発 データに基づく行動変容施策や路線再編施策のための技術開発 地域主導による地域公共交通計画のアップデート等の実践知の創出
<p>🔧 産業構造の強靱化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 業務やシステムのモダナイズ、BPR、省力化等を通じた地域交通の生産性向上を実現 <ul style="list-style-type: none"> 業務モデルの標準化 業務システムのインターフェース標準化 行政手続きのデジタル化を推進

MaaS 2.0の方法論

①デジタル活用の先進事例創出

ベスト・プラクティス開発支援
(サービスの高度化やデータ活用等のベストプラクティスを開発)

②デジタル活用の環境構築

協調領域の定義と標準化
(協調領域における業務、システム、データ等の仕様の標準化)

③デジタル活用の実装支援

オープンソース化
(ベスト・プラクティスのオープンソース化による横展開)

社会実装支援
(ベスト・プラクティスや標準仕様の導入等の社会実装を支援)

協調領域の定義

交通×デジタルの領域において、汎用的、共通の、標準的に官民が成果を共有すべき領域を定義する

オープンソース戦略

OSS、データ、仕様など、生産した成果(ナレッジ)を幅広くオープンとし、誰もが利用可能とする

地域交通の課題解消

協調領域の標準化による投資分散を抑制することで、競争領域への各社投資を促す。交通サービスの改善や新たなソリューション提供により、地域交通の持続可能性、利便性、生産性を向上させる。

国のイニシアティブによる標準化・ベストプラ創出

国がイニシアティブを取り、業界や技術ホルダ、学術と連携することで、地域交通の課題解決に資するベストプラクティスを創出する。

社会実装支援

「日本版MaaS推進・支援事業」等の支援ツールを活用し、ベスト・プラクティスや標準仕様の導入等の社会実装を支援。

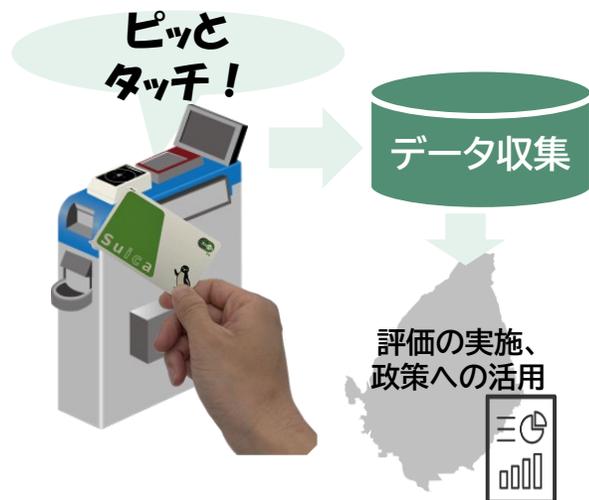
FY2025 プロジェクト紹介

No	カテゴリ	プロジェクト名	選定受託事業者
1	サービス	MaaSのサービス品質向上プロジェクト	東日本旅客鉄道(株)、(株)ヴァル研究所、(株)ケー・シー・エス
2	サービス	新幹線×タクシーの予約連携プロジェクト	東日本旅客鉄道(株)、(株)電脳交通、(株)ケー・シー・エス
3	サービス	ヘルスケアMaaS社会実装プロジェクト	富士通(株)
4	サービス	地域施設送迎のリソースシェア推進プロジェクト	(一社)ソーシャルアクション機構、ソーシャルムーバー(株)、EXA INNOVATION STUDIO(株)、(株)Cuon、(株)岡山トヨタシステムサービス
5	サービス	カーシェアリングによる地域の法人車両活用実証プロジェクト	(株)TRILL.
6	サービス	リアルタイム相乗りタクシーマッチングシステム開発プロジェクト	(株)NearMe
7	データ	モビリティ・データ標準化プロジェクト	フューチャーアーキテクト(株)
8	データ	GTFS-JPのアップデート	TIS(株)
9	データ	GTFS-Flex及びGTFS-Ondemandの技術実証プロジェクト	TIS(株)
10	データ	公共交通分野のオープン・イノベーション促進	(株)横須賀リサーチパーク
11	データ	コミュニティバスキット開発プロジェクト	(株)Will Smart
12	マネジメント	公共交通計画策定支援ツール開発プロジェクト	パシフィックコンサルタンツ(株)
13	マネジメント	地域交通の総合シミュレーションシステムの技術実証プロジェクト	富士通(株)
14	マネジメント	SIMレスバス停開発プロジェクト	(株)小田原機器、(株)MaaSTechJapan、長崎自動車(株)
15	ビジネスプロセス	タクシー配車業務・システムの共通化プロジェクト	(株)電脳交通
16	ビジネスプロセス	デマンドバスシステム標準化プロジェクト	MONET Technologies(株)
17	ビジネスプロセス	二次元バーコードチケットAPI標準化プロジェクト	トヨタファイナンシャルサービス(株)、日本信号(株)
18	ビジネスプロセス	モビリティシェアリングシステム標準化プロジェクト	パシフィックコンサルタンツ(株)、OpenStreet(株)
19	ビジネスプロセス	バス業務標準化プロジェクト	フューチャーアーキテクト(株)、(株)みちのリホールディングス

※No8、9、10、11、12、13については国土交通省情報政策本部が進める「Project LINKS」と連携して実施。

※No2、4、6、15、19については「交通空白」解消パイロットプロジェクトとして位置付け。

MaaSのサービス品質向上プロジェクト | 東日本旅客鉄道(株)、(株)ヴァル研究所、(株)ケー・シー・エス



Point

- 地域の交通サービスを網羅した一元的なICカード化やデマンド交通のリアルタイム経路検索など、これまでにない高い品質のMaaSサービスを実現。
- MaaSから取得した網羅的かつモード横断的な利用実績データの活用により、地域交通のリ・デザインを推進。

スコープ

- 地域鉄道のチケットングをIC化し、他の交通モード利用とあわせて移動データを横断的な取得する環境を構築する。
- マルチモーダルな移動体験の実現のため、デマンド交通の車両位置や予約状況を加味したリアルタイム経路検索を実装する。

提供価値

- 高品質のMaaSを実現することで、持続可能な地域交通の実現や交通事業者のビジネス価値の向上など、MaaSの訴求価値を高める。
- MaaSの利用データを活用することで、実データに基づく効果的な公共交通計画等の策定や評価が可能となる。

新幹線×タクシーの予約連携プロジェクト | 東日本旅客鉄道(株)、(株)電脳交通、(株)ケー・シー・エス


Point

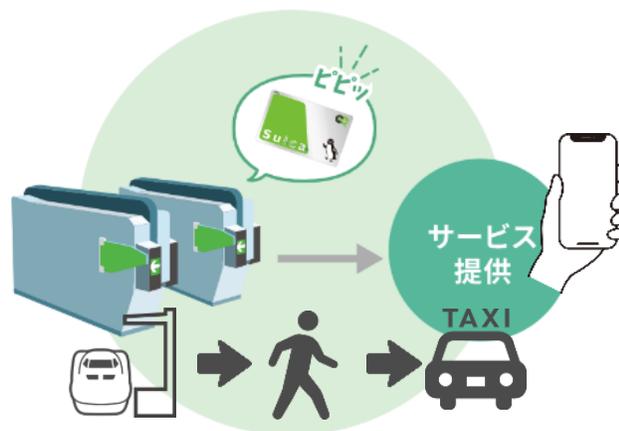
- 「交通空白」解消に向け、新幹線予約システムとタクシー配車システムを連携させたタクシー予約・配車システムを開発。
- 自動改札機の通過情報をタクシー配車システムに連携し、ロスの少ないタクシー配車を可能とする。

スコープ

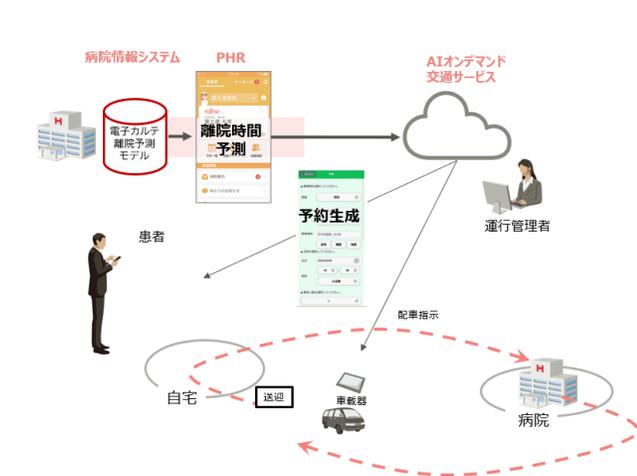
- 高崎市において新幹線予約システム(えきねっと)とタクシー配車システム(電脳交通DS)を連携させ、新幹線予約情報に基づく到着駅におけるタクシー配車予約サービスを提供。
- 自動改札機システム(タッチトリガーシステム)と連携し、予約者の改札通過情報をタクシー事業者へ通知。配車予約の確度を高めることで、効率的な運行に役立てる。

提供価値

- 一次交通と二次交通への乗換における待ち時間を無くしたシームレスな移動体験を実現することで、ユーザーの移動効率や回遊性を向上させる。
- タクシーの顧客接点の拡大や確度の高い予約取得を実現することで、運行事業者の収益性や効率性の向上に寄与し、ドライバー不足などの課題解決の一助とする。



※画像はJR東日本提供



Point

- 病院予約システムと連携した自動的な往路・復路のデマンドバス配車を実現することで、既存サービスのペインを解消し、高齢者等の外出機会を創出。
- 病院を中心とした生活施設へのアクセシビリティを向上させるデマンドバスの新たなユーザー体験を提供。

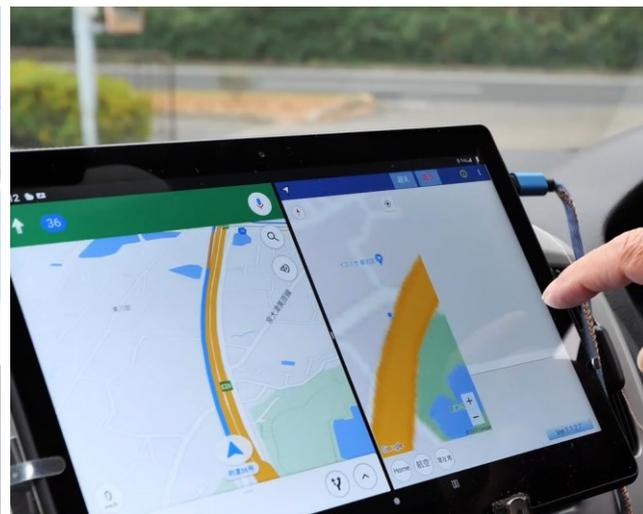
スコープ

- 病院情報システムとデマンドバス配車システムの連携インターフェースの開発により、病院の診察予約時に、デマンドバスの往路・復路・立寄りを自動で予約可能な機能を開発。
- 患者情報を活用した利用者の離院時間を予測する予測モデルを開発することで、スムーズな往路配車を実現。

提供価値

- 従来難しかった、病院の「復路」の配車予約を可能とすることで、高齢者等の外出へのペインを解消し、外出機会創出や健康寿命延伸へ寄与。
- 送迎待ちによる施設の混雑解消や移動手段の確保・提供に関する業務の負荷軽減、データ連携による新たな移動需要の創出等の地域活性化を実現。

地域施設送迎のリソースシェア推進プロジェクト | (一社)ソーシャルアクション機構 等



Point

- 従来バラバラに管理されてきた福祉・観光・教育等様々な送迎車両を汎用配車管理システムにより共同化。
- 扱いやすいUI/UXを実現することで、施設管理者の連携により施設送迎車両を地域輸送資源として活用可能とする。

スコープ

- 複数の施設送迎車両の運行計画立案や運行管理等を行うための共同配車管理システムを開発。
- システムは施設職員等の非専門家の利用を想定し、簡易かつ直感的に利用可能なユーザー体験を提供することで、施設送迎車両による効率的な送迎や観光地への立ち寄りを可能とする。

提供価値

- 開発成果はオープンソースとして誰でも利用可能な形態で公開。安価・軽量の仕組みで福祉・観光・教育等の分野の移動リソースを地域全体で有効活用可能とする。
- 福祉・観光・教育等の施設送迎の負担軽減による担い手不足対策と地域の輸送資源確保を両立させ、「地域の足」「観光の足」確保を図る。

カーシェアリングによる地域の法人車両活用実証プロジェクト | (株)TRILL.



Point

- 共同使用契約の仕組みを活用し、夜間や休日に遊休化している地域の法人保有車両等を来訪者等へ貸し出す新たなカーシェアリングサービスを開発。
- 自家用車両活用の先進事例を創出することで、「交通空白」解消のための新たなスキームとして全国展開。

スコープ

- 地域の会社等が所有する自家用車を安心安全かつ利便性高く来訪者等へ貸し出す新たなシェアリングサービスとして、共同使用契約のスキームを活用した貸し出し・契約システムを開発。
- 既存の交通サービスやレンタカーが乏しい地域へサービス展開することで、ビジネスモデルの有用性を検証する。

提供価値

- 夜間や休日に遊休化している法人所有の社用車を有効活用することで、維持費用負担軽減など法人側へのベネフィットを創出しつつ、「交通空白」が課題となっている地域で「地域の足」「観光の足」確保を図る。
- 共同使用契約に独自の契約形態や安全管理、適正な負担費用算出などのプロセスをシステム上で実現する技術的ナレッジを創出し、横展開を図る。

NearMe | ニアミー

 Point

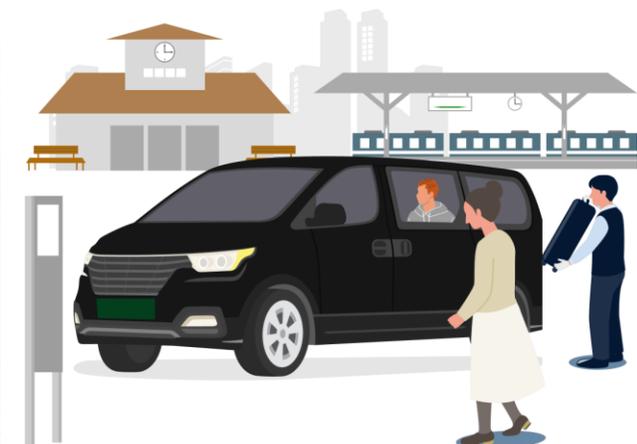
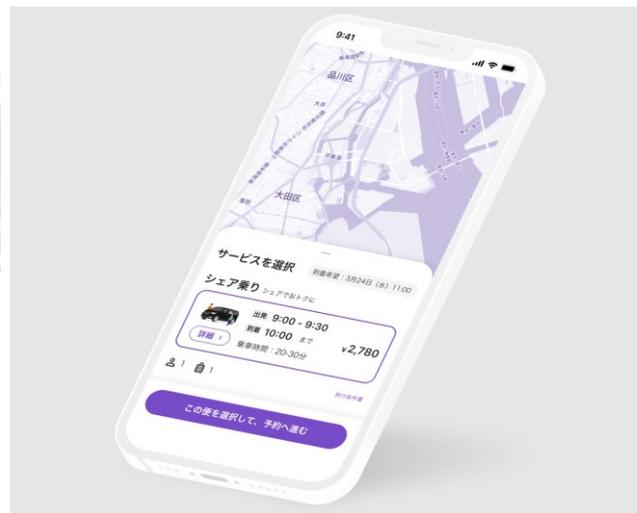
- 即座に、手軽に利用可能な相乗りタクシーのリアルタイムマッチングシステムを構築。
- 既存車両を最大限効率的に活用し、観光地や都心部における終電後に「タクシーが捕まらない」問題を解消。利便向上や消費活動の活性化を図る。

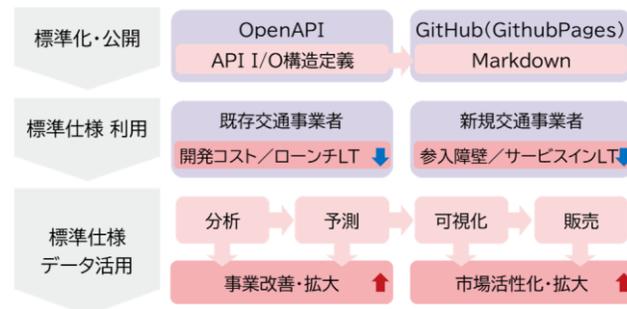
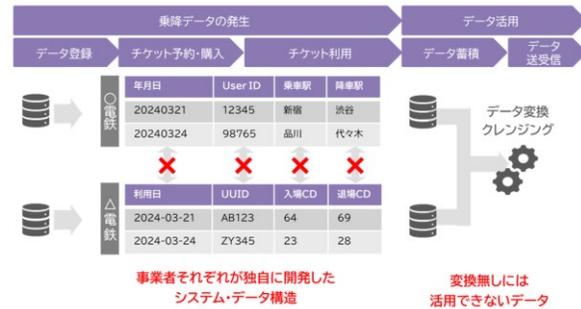
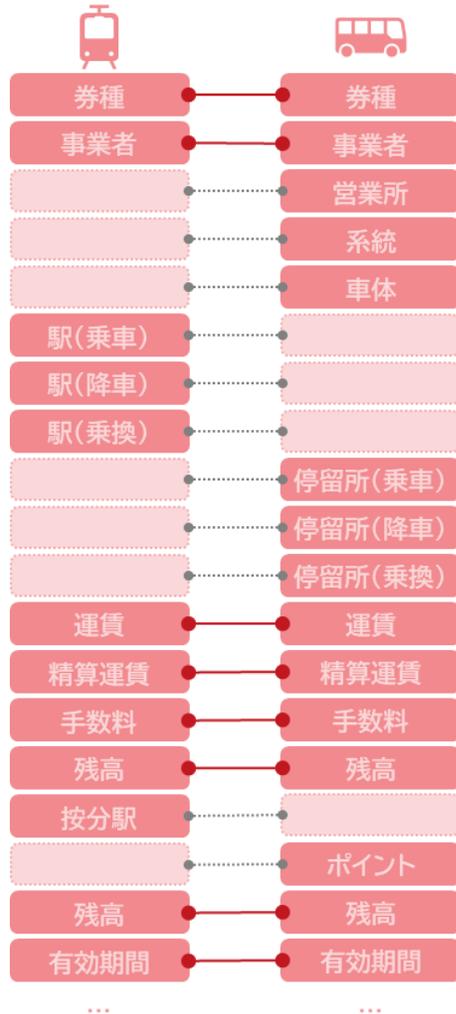
 スコープ

- 事前予約が基本となっている相乗りタクシーの仕組みを発展させ、「その場」でマッチング検索を行い、相乗りを成約させるリアルタイムマッチングシステムを開発する。
- 利用者主体の募集や、潜在利用者に対するプッシュ通知など、リアルタイムの需要マッチングと成約を実現するための新たな技術開発を行い、有用性を検証する。

 提供価値

- 既存の交通リソースの効率的な活用により、供給量の拡大、移動コストの低減、利便性の飛躍的向上を同時に実現。都心部や観光地における「観光の足」確保を図る。
- リアルタイムの相乗りタクシーマッチングに関する技術的及びビジネス的な検証成果をオープンナレッジ化することで、全国における横展開を推進。





Point

- 現状バラバラとなっている、鉄道やバスの乗降実績データや運賃箱の一件明細データ等のモビリティ・データの標準仕様案を策定する。
- 地域におけるデータ活用の実態を踏まえたデータ仕様を標準化することで、データ活用のコスト低減を図る。

スコープ

- 鉄道やバス等のICカード認証システム等から取得される乗降実績データやバス運賃箱から取得される一件明細データ等のモビリティ・データの標準仕様案を策定する。
- 既存システムのデータ仕様調査に加え、データ活用の実態やPoCシステムによる有用性検証を踏まえた標準仕様案とすることで、仕様の実用性を担保する。

提供価値

- 鉄道やバス等の乗降実績データの仕様がシステムや交通モードごとに異なっているため、データ分析システムでの利用や複数モードのデータ統合のコストが高い課題を解消。
- データ活用コストを低減させ、地域公共交通計画のアップデート等を促進するとともに、多様な分野におけるデータ活用を推進。



Point

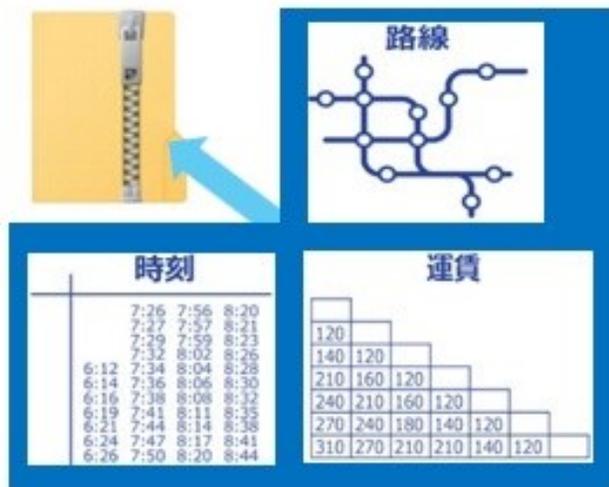
- GTFSの国際標準の動向と国内の整備・活用状況、学術における活用実態等を踏まえ、GTFS国内標準(GTFS-JP)のアップデートを行う。
- GTFS品質の向上や整備促進により、乗換案内や様々なアプリによる活用を推進。

スコープ

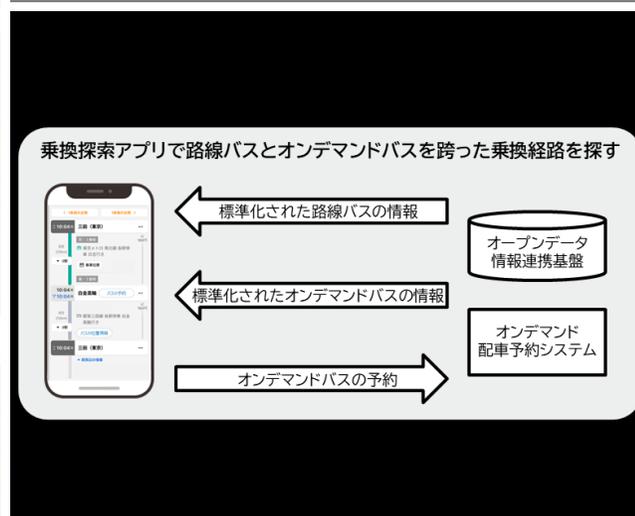
- GTFS-ScheduleやGTFS-RT、GTFS-Flex等の最新の国際標準の国内標準への取込みを図るとともに、利用実態を踏まえたデータ項目の再編や入力規則の策定等によりデータ品質向上とデータ整備の容易化を推進。
- GTFSデータの整備者・利用者の両者に分かりやすく明確な技術解説資料を作成するとともに、普及活動を実施。

提供価値

- 国内標準の最新化や技術解説資料の公開により、交通事業者や自治体等によるデータ作成の促進や、データ作成システムの開発の活性化を実現。
- 品質の高いGTFSデータの整備・公開を促進することで、GoogleMapsをはじめとする多様な情報提供サービスへの地域交通情報の掲載を促進。



GTFS-Flex及びGTFS-Ondemandの技術実証プロジェクト | TIS(株)



Point

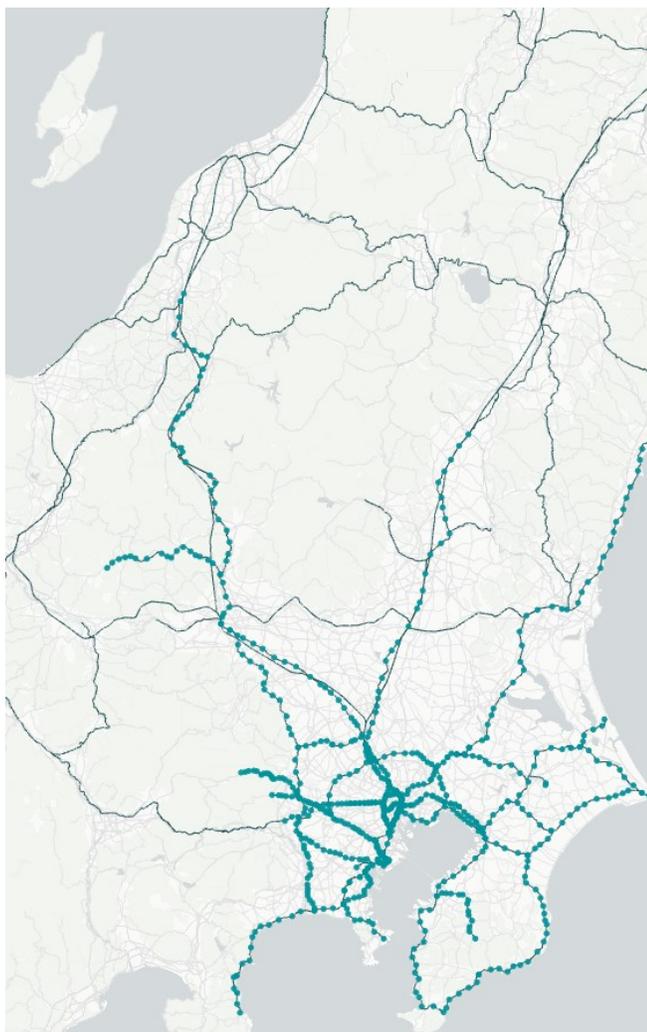
- オンデマンドバス等のデマンド型交通の経路検索を可能とする新たなデータ形式GTFS-Flex及びGTFS-Ondemandの技術検証を実施。
- 検証成果をオープンナレッジ化することで、デマンド型交通の経路検索サービスへの掲載を促進。

スコープ

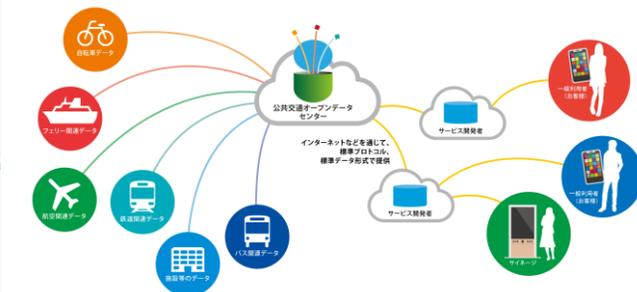
- 国際標準規格GTFS-Flex及び技術提案規格GTFS-Ondemandのデータ有用性やアプリ実装の実用性等を検証するためのデータ整備及びアプリ開発を実施。
- サービスの有用性検証のため、札幌市において定時定路線バスとオンデマンドバスを対象とした実装レベルに近いサービス提供を行う。

提供価値

- 経路検索サービスからオンデマンド型交通へのアクセスを改善することで、認知に課題のあるデマンドバス等の収益性を改善するとともに、定時定路線型交通と組み合わせたマルチモーダルかつシームレスな移動を実現。
- 区域運行型交通の経路検索を可能とする最先端規格GTFS-Ondemandの実証成果を公開することで、国際的な技術革新へも貢献。



公共交通オープンデータチャレンジ2024 -powered by Project LINKS-



Point

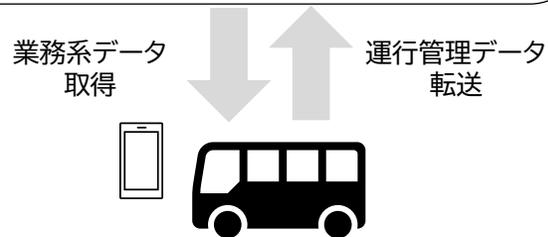
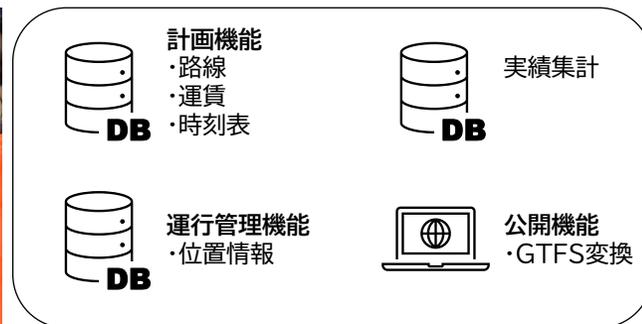
- GTFSデータ等の整備・活用を促進し、地域交通におけるイノベーションを創出するため、オープンデータを利用したアプリコンテストを開催。
- 鉄道、バス、航空、フェリー、シェアサイクル等多様な事業者の協力を得て大規模なデータ整備・公開を実施。

スコープ

- 公共交通オープンデータ協議会と連携し、公共交通分野のオープンデータを活用したアプリ開発コンテスト「公共交通オープンデータチャレンジ」を開催。
- コンテストを契機とし、事業者・自治体向けウェビナーの開催、関連イベントの実施、事業者との連携等を行い、オープンデータの整備と活用を促進する。

提供価値

- オープンデータの活用を活性化させることで、地方公共団体や交通事業者によるGTFSデータ等の整備とオープンデータ化の意義の認知拡大を図る。
- 交通領域以外の多様な技術分野の参画を促すことで、地域交通における新たなサービスや業務改革などオープン・イノベーションの創出を促進する。



Point

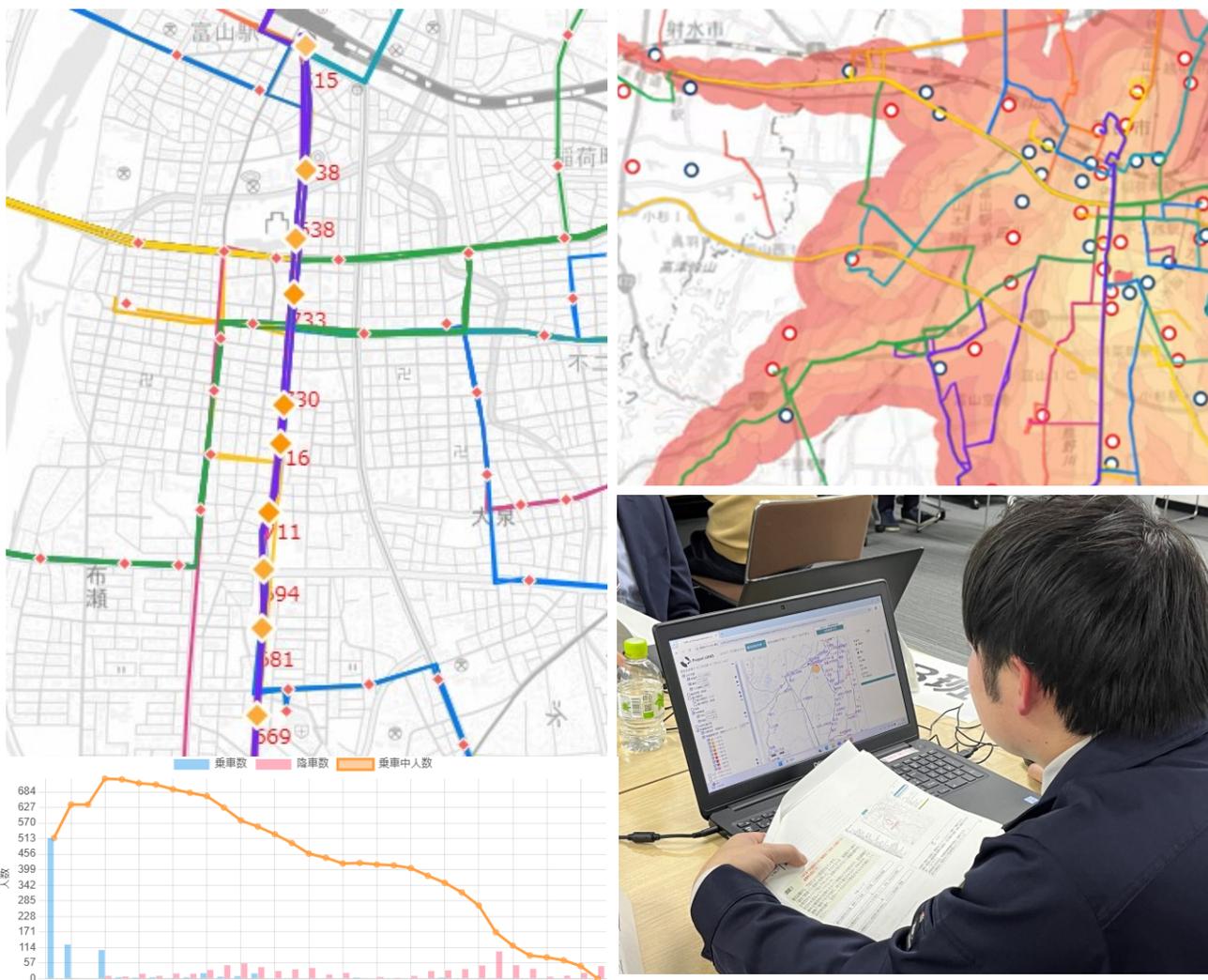
- 地方の小規模バス/コミュニティバスの運行効率化と経路検索アプリへの情報掲載促進を図るため、ダイヤ編成やGTFS出力を可能とする支援ツールを開発。
- 開発成果をオープンソースとして公開し、全国へ横展開を推進。

スコープ

- 1台~数台程度の小規模事業を想定し、事業運営に必要なダイヤ編成機能や運行実績管理機能、売上実績管理機能等を持つツールを開発し、オープンソースとして公開。
- 特に地方部の観光地等において経路検索アプリへ情報が掲載されない問題に対応するため、ダイヤ編成機能とGTFS出力機能を連携させ、簡易にデータ整備可能な環境を構築。

提供価値

- 安価・簡易な利用環境を整備することで、DX投資に余力のない小規模事業者における業務のデジタル化・負荷軽減を促進。
- 業務支援システムとGTFS出力機能をノーコードツールとしてセットで提供することで、GTFSデータ作成の属人化を回避し、持続可能なデータ整備を実現。



Point

- GTFSデータや乗降実績データ等を活用し、ブラウザ上で容易に地域交通の現状可視化や分析を可能とするウェブツールを開発。
- 開発成果はオープンソースとして公開。自治体職員等がデータを活用した地域公共交通計画を立案するための環境を整備。

スコープ

- 到達圏分析やOD輸送量など、地域交通計画の検討に必要な諸情報を地図、グラフ、表で簡単に可視化できるツールを開発し、オープンソースで提供。
- バスのルートや停留所の配置、運行本数変更等の検討に必要なシミュレーション機能を簡易なUI/UXで提供し、非専門家でもデータ分析可能な環境を構築。

提供価値

- GTFSデータや標準的な乗降実績データなど、標準化されたデータを入力可能な汎用インターフェースをノーコードで提供することで、地域交通政策の検討におけるデータ活用のハードルを低減。
- 施策効果のシミュレーション等の意思決定支援機能を提供することで、検討資料作成や説明にかかる時間短縮や品質向上(EBPM)を実現。



Point

- 定時定路線型に加え、デマンド型やシェアリングサービスも含めた地域交通の「リ・デザイン」を支援するための地域交通総合シミュレーション技術を開発。
- 政策変更によるサービスレベルの変化等を予測することで、データに基づく地域交通政策を実現。

スコープ

- 地域内の移動需要予測、移動需要毎の移動手段推定、交通サービス供給量の変化によるサービスレベルの変化予測などの機能を、定時定路線型交通とデマンド型交通を統合して提供する総合シミュレーション技術を開発。
- モード横断的なODデータを活用した需要予測や移動手段推定の補正アルゴリズムの開発により精度向上を図る。

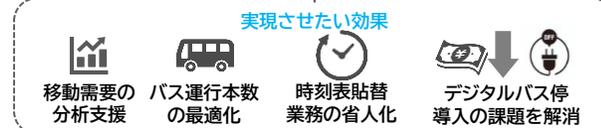
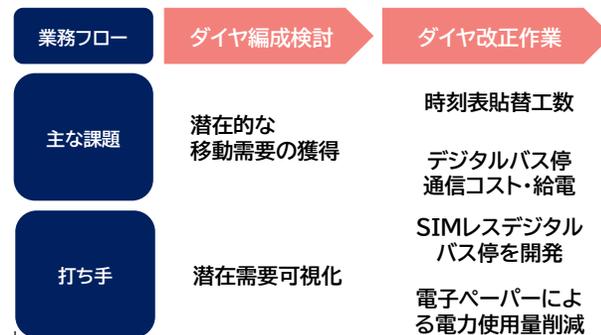
提供価値

- 交通モードを横断したマルチモーダルなシミュレーション技術の開発により、地域交通全体を最適化・再構築するための根拠を提供し、地域公共交通計画のアップデート等を促進。
- 地域交通の総合シミュレーション技術実装のためのナレッジを公開することで、技術開発の促進や横展開を実現。

SIMレスバス停開発プロジェクト | 長崎自動車(株)、(株)MaaS Tech Japan、(株)小田原機器



※デジタルバス停は重松工業株式会社と共に開発を進めています。


 Point

- 移動需要に応じた柔軟なバス運行の実現のため、バス停とバス車両間の短距離通信によりバス停の掲示情報を更新する「SIMレスデジタルバス停」を開発。
- 時刻表貼替作業の省人化や迅速な運行情報等の伝達を実現し、運行の効率化を図る。

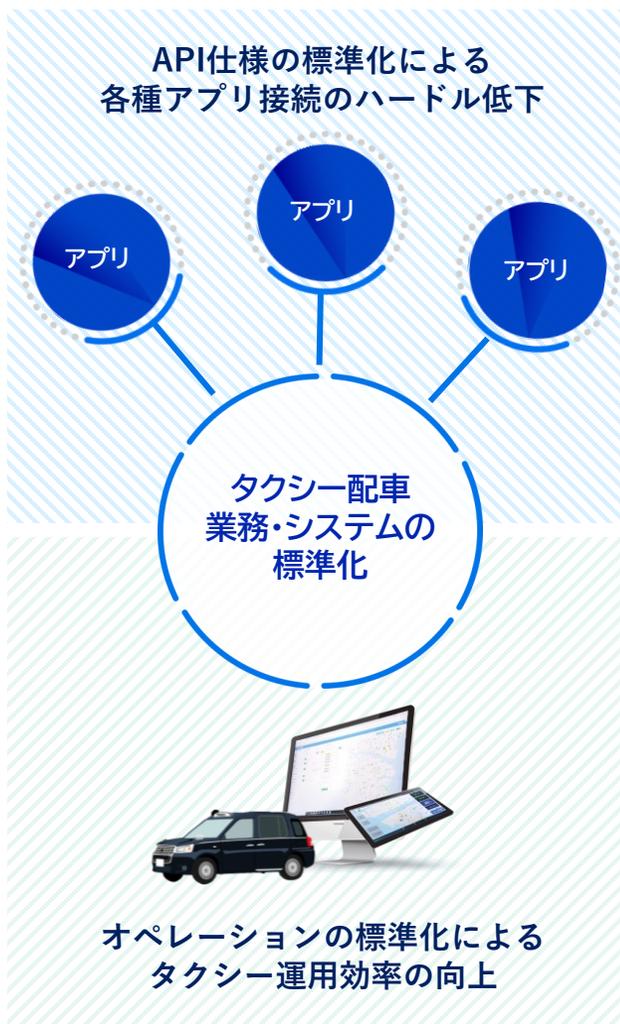
 スコープ

- Wi-Fiなどを活用し、路線バスの車両に搭載した車載器とデジタルバス停間でデータの送受信が可能なシステムを開発。長崎市における試験運用により技術検証を行う。
- あわせて乗降実績データや人流データを活用して地域の潜在的なバス需要を可視化してダイヤへ反映するシステムを開発し、柔軟なダイヤ改正の企画と迅速な実装の双方を実現。

 提供価値

- 従来の通信型デジタルバス停の課題であった、躯体コストや通信コストの問題を解消し、安価で大規模に実装可能な新たなデジタルバス停システムを実装。
- 時刻表の貼替作業の省人化することで、イベント時の臨時便情報の迅速な発出や柔軟なダイヤ改正などバスの利便性と生産性の向上を図る。

電脳交通



Point

- 複数のタクシー会社の連携による共同配車の標準モデルを策定し、タクシー業界の生産性向上のモデルケースとして全国展開を図る。
- 配車システムと配車アプリのAPI連携仕様を標準化。異なる配車アプリから配車システムへのアクセスのワンストップ化を実現する。

スコープ

- 共同配車の新規立上・システム導入の為の標準業務モデル及び事業者向けガイドを作成する。
- 配車アプリと配車システムを連携するための標準インターフェース仕様の開発を行う。
- 複数地域で共同配車室の立ち上げ及びアプリ連携の導入を行い、有用性を検証する。

提供価値

- 共同配車の実現に向けたタクシー会社間の合意形成コストを低減させ、新規立ち上げを促進。地域のタクシー会社の生産性向上を図る。
- 既に異なる配車アプリが導入されている地域においても配車システムを活用した共同配車を実現しやすくすることで、ユーザー利便性向上とタクシー会社の運行効率向上の両立を実現。

デマンドバスシステム標準化プロジェクト | MONET Technologies(株)



インターオペラビリティを支える仕組み



Point

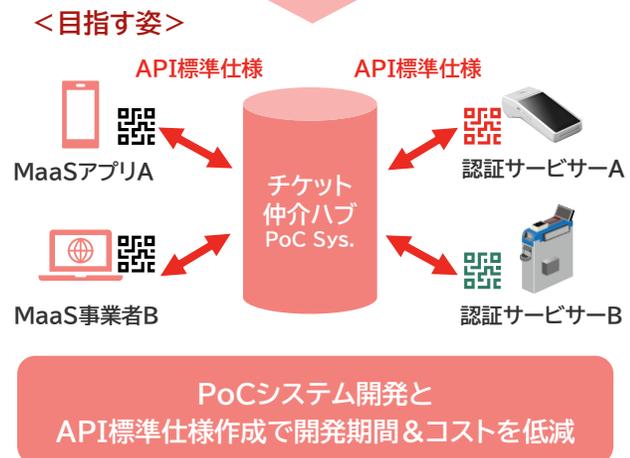
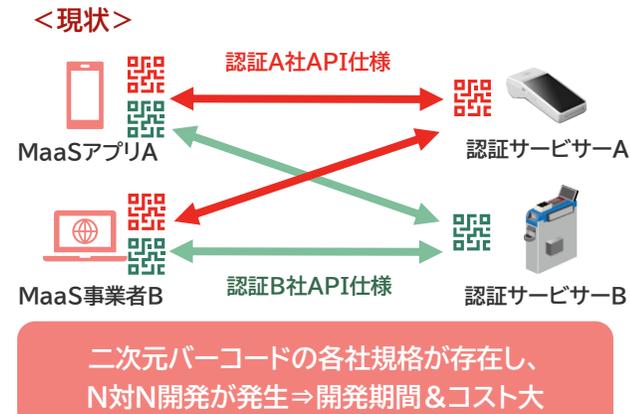
- 乱立するデマンドバスシステムのインターオペラビリティを確保するため、システム間連携インターフェースの標準仕様を策定。
- 地域の輸送サービスへのアクセスをワンストップ化することで、既存輸送資源のフル活用を実現。

スコープ

- デマンドバスシステムの標準的な業務モデルを整理し、これに基づくシステム間連携インターフェースを標準APIとして策定。
- MaaSアプリ等を通じたデマンドバスへのアクセスをワンストップ化し、その有用性を検証する。

提供価値

- 既存のデマンドバスシステムの特徴や機能を協調領域として、システム間のインターオペラビリティを協調領域として標準化することで、サービス間の相互連携を促進し、開発コスト低減や利便性向上、業務効率化等を実現。
- デマンドバスアプリ以外の交通サービスとの連携を可能とすることで、地域の輸送資源の連携を向上させ、持続可能な地域交通を実現。



Point

- 交通モードやシステムごとにバラバラに提供されている二次元バーコード認証システムが相互に連携するための標準API仕様を策定。
- 異なる認証システム間の連携コストを低減し、MaaSアプリによるワンストップ化を実現する。

スコープ

- 二次元バーコードチケットングにおける標準業務モデルの整理と、各認証サービス・MaaSサービスを相互に連携するための標準的な連携インターフェース仕様を作成する。
- 作成したIF標準仕様を用いてPoCシステム開発等の技術実証を行い、連携システム開発コストの低減効果等の有用性を検証する。

提供価値

- 各チケット認証サービスとMaaSアプリ等サービス間で個別に発生しているシステム連携開発のコストを低減し、MaaS領域における二次元バーコードチケットングの拡大を図る。
- 特に現状実現していない鉄道-バス等のモード横断の二次元バーコードチケット認証を実現することで、MaaS等の地域交通の利便性向上を実現する。


 Point

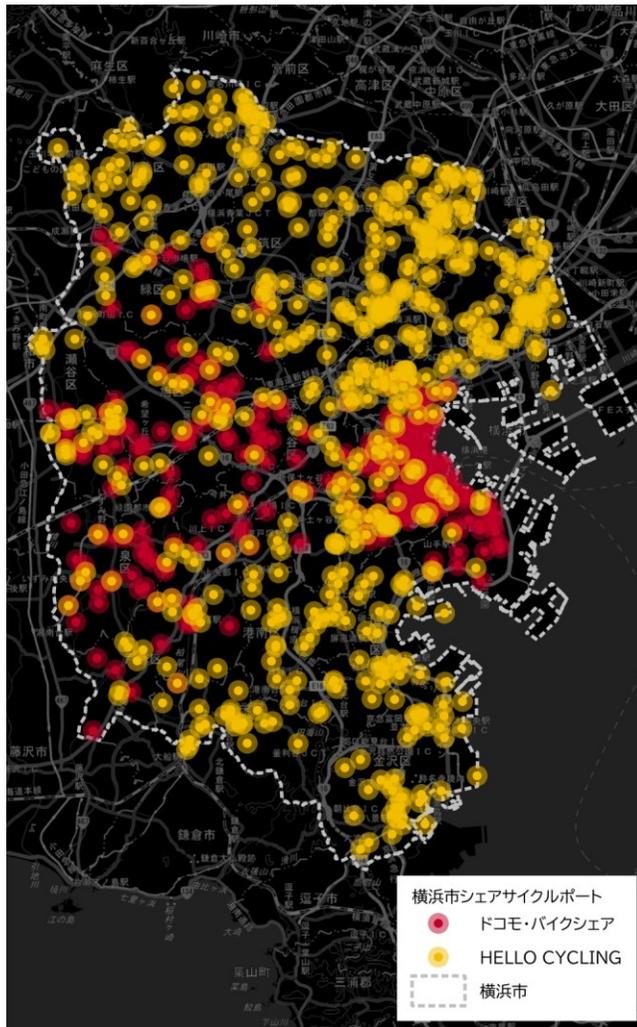
- 複数のシェアサイクル事業者によるポート共有、情報連携、精算連携等の連携手法を標準化することで、地域におけるサービス品質・事業継続性を向上させる。
- アプリに関わらず利用者がアクセスできるシェアサイクルを増大させ、より簡単に利用できる環境を提供。

スコープ

- 複数のシェアサイクル事業者がシェアサイクルポートを共有して事業を行うための標準業務モデルを作成し、これに基づくシステム間連携のための標準インタフェース(外部API)の開発を行う。
- 共有ポート標準業務モデル及び標準インタフェースを実証地域で実際に導入し、その有用性を検証する。

提供価値

- シェアサイクルの共有ポート化を推進することで、限りあるポート用地の有効活用を促進。これを協調領域とすることで、経営資源を他の領域に注力可能とし、サービス品質および事業継続性を高める。
- 複数のシェアサイクル事業者を横断したサイクルポート・経路検索を実現することにより、利用者の利便性向上を図る。



複数の事業者がポートを共有するイメージ



 Point

- 現状バラバラとなっているバス事業における業務手順やシステム構成、データ仕様等を一体的に標準化。
- システムリプレイスやデータ連携、業務連携等に必要なコストを低減させ、産業構造の強靱化を実現。


 スコープ

- 全国のバス事業における業務手順やシステム構成などの調査を通じ、実用性の高い標準的な業務手順、システムアーキテクチャ、データインターフェース仕様を定義。
- 標準仕様書(案)について全国の事業者と協議を行い、結果を反映。業務効率化やシステムコスト低減などの有用性を検証する。


 提供価値

- バス業務標準仕様書(案)によって、事業者ごとに個別最適化された業務やシステムの標準化を図り、システムの導入/リプレイスコストの低減や業務効率化、利用者利便性向上を実現。
- さらに、システム間連携コストやデータ活用コストの低減を図ることで、新たなサービスやイノベーション創出を促進。

